






【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
生活協同組合コープぎふ	小学校第5学年	5-2教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「フードバランス(豆を食べてマメにくらそう!)」</p> <p>食べること、とくにバランスよく食べることの大切さを学びます。大豆に焦点を当てて大豆製品の例を取り上げ、大豆のパワー、栄養効用などを学びます。朝食を例にして献立を考え、バランスよく食べることを学びます。数人ずつのグループワークとして実施します。</p>		
		


【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
岐阜新聞社	小学校第5学年	5-3教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「情報をいろいろな視点から～新聞記事を読み解こう!～」</p> <p>「情報」ってなんだろうーを考える。情報は発信者の意図によって表現の仕方が違うことを知り、情報を複眼的、多面的に捉える意識をもてるよう導きます。具体的な教材として、新聞記事を使用し、甲子園球場で行われる全国高校野球大会の1試合を取り上げ、地元のチームの試合を双方の地元新聞はどのように報じたかを見ていき、見出しや内容の違いを確かめていきます。一つの情報で物事を決め付けたり、評価をしてしまわないー引いては消費行動に慎重に考えられる子を育みます。</p>		
		


【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
岐阜県県民生活相談センター	小学校第6学年	6-1教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「身につけよう!けいやくの知識」</p> <p>大人であっても振り込め詐欺、架空請求、悪質商法などに騙されて、毎日のようにセンターへ相談を寄せてきます。このようなトラブルから身を守るには小さな頃から、消費生活に関する知恵を身につけておくことが大切です。この講座では、クイズや啓発パネルを使った講話を通じて、児童にも分かりやすく“けいやく”の大切さを教え、児童を取り巻く消費者トラブルの実例を紹介し、それらの対処法や留意点を一緒に考えます。</p>		


【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
中部電力	小学校第6学年	6-2教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「環境エネルギー教室Ⅱ 身近なエコライフ (シロクマ家族のエコエコライフ)」</p> <p>地球温暖化を防ぐために自分たちが無理なくできることを、ビデオ学習とワークシート学習を通してシロクマ家族と探します。「ムダ使い」と「かしこく使う」の区別を意識しながら、身近なエコライフを一緒に考えます。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
朝日新聞社	小学校第6学年	6-3教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「新聞って、読んだことある?」</p> <p>新聞って、ニュースを伝えるものだよね。英語で言うと、Newspaper(記事が書いてある紙)。でもよく見て。最近の新聞にはカラーのきれいなページもあるよ。いろんな会社の売っている品物や、会社自体のことを知らせる広告面だ。朝日新聞は日本を代表する新聞社。記事の正しさにも定評があるけれど、商品やサービスを紹介する広告でも、厳しい審査をした上で新聞にのせているんだよ。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
十六銀行	小学校第6学年	6-4教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「お金はじょうずに使おう！」</p> <p>児童との対話を通じて、「お金の役割」や「お金を得るには労働が必要なこと」、「お金のじょうずな使い方」、「幸せに暮らすためにはお金が必要だが、それ自体が一番大切なものではないこと」などを児童自身が考えながら学習していきます。ジュラルミン製のケースに入った模擬紙幣1億円を使って、大封(1千万円)に触れる体験学習も行います。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
岐阜県金融広報委員会	中学校第1学年	1-1教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「大人になっても困らないお金との付き合い方」</p> <p>お金の意味、お金はなんのために必要か、お金の大切さをワークショップ形式で深めていきます。生徒たちが、将来幸せに暮らすためにお金とどう向き合うかを扱っています。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
製品評価技術基盤機構(NITE)	中学校第1学年	1-2教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「くらしに潜む危険から身を守るために」</p> <p>製品評価技術基盤機構が、これまで収集調査した事故情報について分析したところ、製品に関わる事故は、設計ミスや製造不良など、製品自体が原因で発生する事故だけでなく、使用者の誤った使い方(誤使用)や不注意によって起こる事故が多く発生していることがわかりました。</p> <p>誤使用や不注意が原因となって起こる事故の背景には、製品の安全性に対する過信や危険性への意識の低さがあるのではないのでしょうか。私たちが普段何気なく使用している製品にも同じような危険が潜んでいることを今一度思い出してみましょう。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
パナソニック	中学校第1学年	第2理科室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「エコ・モノ語(えこものがたり)」</p> <p>「エコ・モノ語(がたり)」は、小学校5年生の社会科単元「工業生産を支える人たち」と、中学校の公民に連動し、生活に身近な家電製品をテーマに、モノづくりを支える人々の役割や、環境への努力、工夫について体系的に学ぶことをねらいとしています。また、キャリア教育の視点からは、モノづくりを支える様々な役割の人々の連携により仕事が成り立っていることや、開発の苦労話、自分や仲間を信じて努力を積み重ねることの大切さを伝えています。</p>		
		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
毎日新聞社	中学校第1学年	1-3教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「巨大地震が起きたとき、いかに生き延びるか～科学記者として最前線の地震研究を取材して～」</p> <p>昨年3月の東日本大震災からまもなく1年となります。震災以後、防災への関心は高まり、連日のように最新の研究成果が発表されています。東海地震の予知は本当にできるのか。実際に巨大地震が起きたときはどのように対処したらよいのか。地震のメカニズムを理解しながら、そのときへの対応を一緒に考えます。</p>		
		